別　紙

１．実施時期

２０２７年３月（予定）から

※２０２６年１２月頃から習熟訓練を行います。

２．対象路線

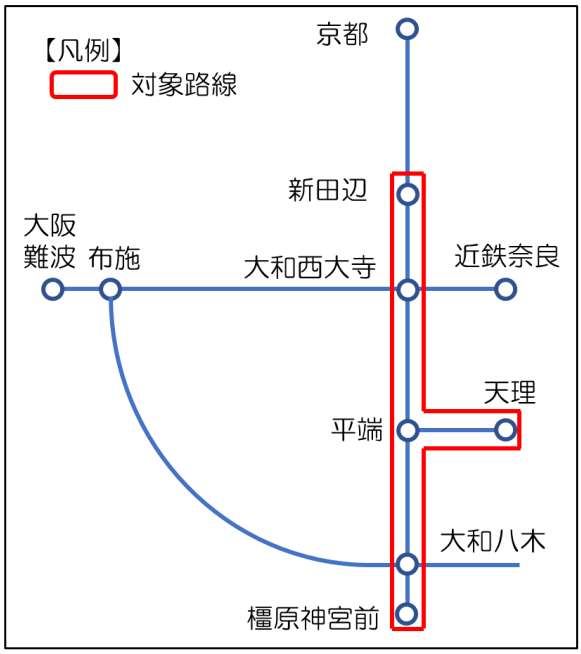
橿原線全線（大和西大寺駅～橿原神宮前駅間）

天理線全線（平端駅～天理駅間）

京都線（新田辺駅～大和西大寺駅間）

３．対象列車

一部の普通列車（４両編成）



対象路線概略図

４．主な安全設備

（１）車両の設備

〇車側カメラシステム

車両１両あたり片側２カ所（両側４カ所）に「車両側面カメラ」を設置します。

運転士は運転台に設置されたモニターで、その映像を確認することができ、視認性が向上します。

※２０２４年４月から検証を行い、視認性などに問題がないことを確認しています。



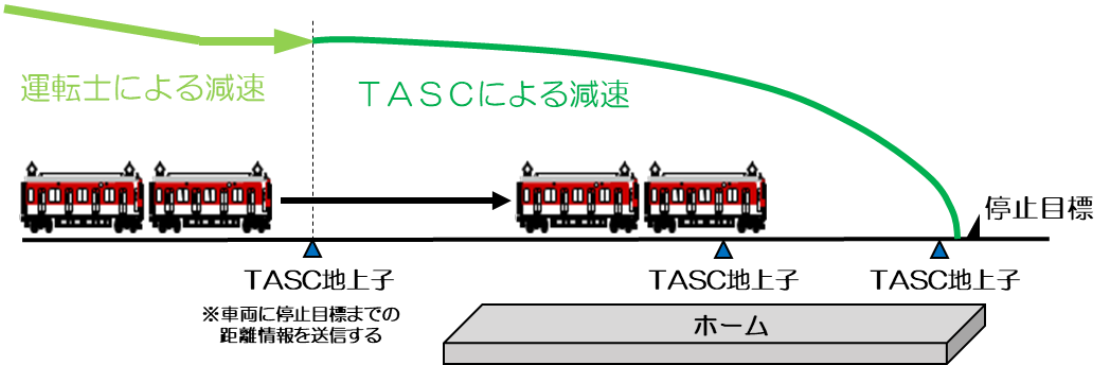
運転室カメラ表示モニター（1 画面に３両分を表示）

〇定位置停止（TASC）装置

駅停車時に自動でブレーキをかけ、所定の位置に停止させる運転支援装置を新たに設置します。

確実な停車により、列車運行の安全性・安定性の向上を図ります。

※２０２５年１月から検証を行い、停止精度などに問題がないことを確認しています。



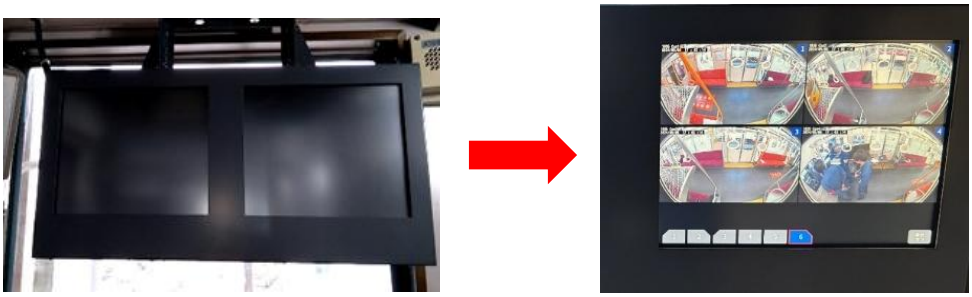
定位置停止（TASC）装置の停車イメージ

〇車内防犯カメラ、非常通話装置

車内に防犯カメラおよび非常通話装置を設置しています。非常通話装置の押しボタンが操作された際に、カメラの映像や音声を運転士や運転指令が遠隔で確認できるシステムを導入します。



非常通話装置



車内防犯カメラ映像例

（押しボタンが操作された際に、運転室内モニターに車内防犯カメラ映像が表示される仕組み）

〇運転士異常時列車停止装置

運転士が乗務中に疾病等により運転を継続できなくなったとき、力行ハンドルから手もしくは運転台足元のペダルから足が離れると、列車が停止する装置を設置します。

〇扉誤扱い防止支援装置

運転士が誤ってホームの無い側の扉を開ける操作をしても、定位置停止（TASC）装置が認識している走行位置情報をもとに、あらかじめ登録したホーム位置情報と照合することで、ホームの有無を検知し扉が開かないようにする装置を設置します。

（２）駅の設備

〇車側監視支援用センサーシステム（大和西大寺駅に設置）

列車が駅を発車する時、車両側面に沿って設定したセンサーエリア内で人等を検知した場合に、ホーム端等に設置した反応灯により運転士に異常を知らせる装置です。大和西大寺駅１～5 番ホームに設置します。



ホームセンシングイメージ



支障物・車両検知センサー

（以　上）